

八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2 に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

前兆再出現継続 → Stage-11の前兆変動認識誤認确实 大変申し訳ありません

➡ No1778の対応地震 推定発生日=6/5±3 or 6/10±3の可能性

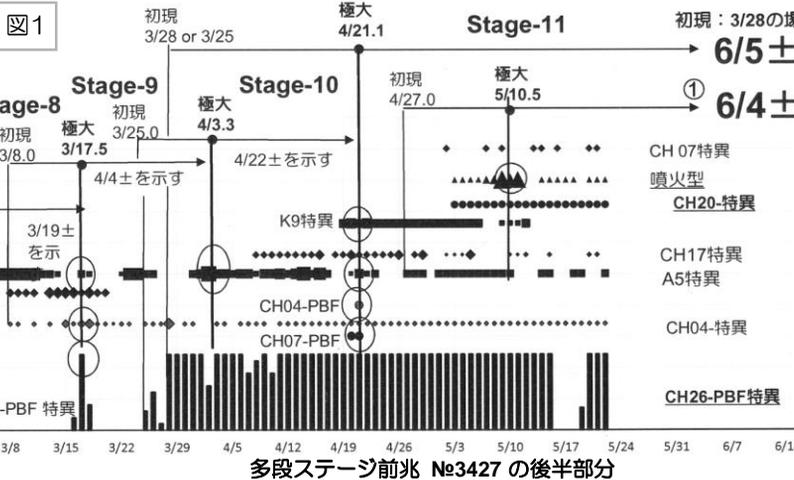
前兆変動終息を確認して発生日計算予定 ➡

No3427=No1778の別形態多段階ステージ前兆変動

① 噴火型+CH20特異等=No1778の第27ステージ

第11ステージが示す日

図2	6/5±3発生の 場合の終息時期	6/10±3発生の 場合の終息時期
	↓	↓
Stage-11	5/25±2	5/28±2
Stage-27	5/31±2	6/02±2



初現：3/28の場合 初現：3/25の場合

➡ 6/5±3 or 6/10±3

① 6/4±3

前続報情報までは、No1778前兆の対応地震発生時期を5/25±2発生の可能性が高いと報告致しました。この場合、No1778の別形態多段階ステージ前兆の第11ステージも終息済みであり、No1778の第27ステージとなる噴火型前兆等も本日までには終息の可能性が計算されました。

しかし、秋田観測点のA5をはじめ、噴火型や静穏化していた八ヶ岳のCH26-PBF特異も再出現し、現在図1のとおり継続しています。最初は直前特異の可能性も考えましたが、継続出現していることから合いません。このことから現在の認識推定が誤りであることが确实です。大変申し訳ございませんでした。平に陳謝致します。

Stage-11の初現：CH26-PBF特異の可能性

図1参照下さい。Stage-11極大(4/21.1)を中心に出現している前兆変動に八ヶ岳のCH26-PBF特異があります。このCH26-PBF特異の初現が、Stage-11の初現の可能性が高いと考えられます。図1のとおり、3/25から継続出現していますが、3/25はStage-10の初現で調和しており、一度減少して3/28から顕著に継続出現しています。3/28をStage-11の初現とするか3/25を初現とするかで、発生推定日は異なります。3/28をStage-11の初現と認識する方が良いとは思われますが、3/25の可能性も完全否定はできません。従って、Stage-11前兆終息を確認して、発生推定日を計算したいと考えます。上の図2枠内に終息の可能性時期を記しました。噴火型前兆もA5特異を初現とすると、同じ様な時期が計算できます。たまたま同じ時期計算できるため、誤認である可能性もありますがいずれにしましても、各前兆変動の完全終息を確認して、発生日を計算したいと考えます。

※前兆変動の初現時期認識を誤認し、さらに前兆変動終息の可能性としましたが、継続出現。重ねて深くお詫び申し上げます。



最近の観測からは上点線より西側領域に震源がある可能性が考えやすい



●推定領域：図3の太線内領域=大枠推定領域
図3の斜線域=可能性考えやすい推定領域
震源が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：M8.0±0.3
※噴火型前兆変動が観測されているため震源に近い火山の噴火の可能性も否定困難ですが、過去例と異なるため、噴火に至らない可能性も有

●推定時期：6/5±3 or 6/10±3の可能性
※前兆終息を確認して発生日計算予定

○推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
○推定発生日時刻：午前09時±2 or 午後06時±3